

令和2年度 ミニ・キエーロモニター事業の実施結果

1 事業概要

土の中の微生物の力で生ごみを分解・消失する生ごみ分解処理容器「ミニ・キエーロ」を使用し、その有効性・課題を検証するとともに、家庭から排出される生ごみ減量の取り組みを普及推進するもの。

市内の70世帯で実際にミニ・キエーロを使用してもらい、使用実績についてアンケート調査を実施した。

調査期間: 令和2年8月 回答数: 59

2 実施結果

(1) 処理状況

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「うまくいっている」が43件、「うまくいっていない」が12件であり、約8割がうまくいっているとの回答であった。

うまくいっていない理由については、「分解しない」が最も多く8件、「手間がかかる」が5件、「虫がわく」が4件、「その他」が1件であった。

処理状況

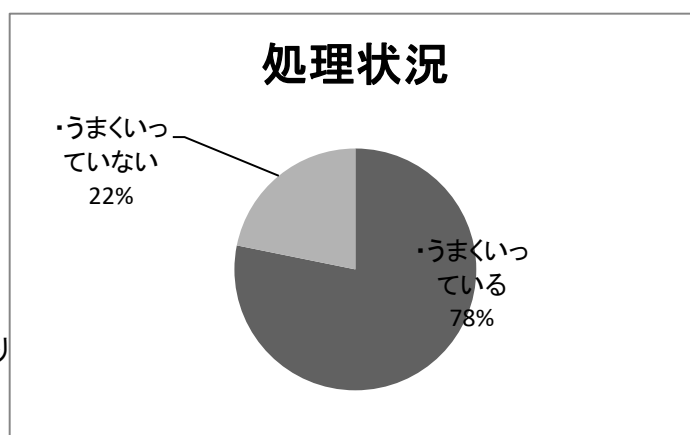
・うまくいっている	43
・うまくいっていない	12

※未回答 4

うまくいっていない理由

・分解しない	8
・手間がかかる	5
・臭いが出る	0
・虫がわく	4
・その他	1

※複数回答あり



(2) 投入量・頻度

全モニター世帯の生ごみ投入量は、約3週間(8/9～31)で合計約140kgであり、1回あたりの平均投入量は約220gであった。投入頻度は「ほぼ毎日」と「2～3日に1回」が最も多くそれぞれ22件、次いで「4～5日に1回」が11件であり、平均投入頻度は2.2日に1回(月に換算すると14回程度)であった。

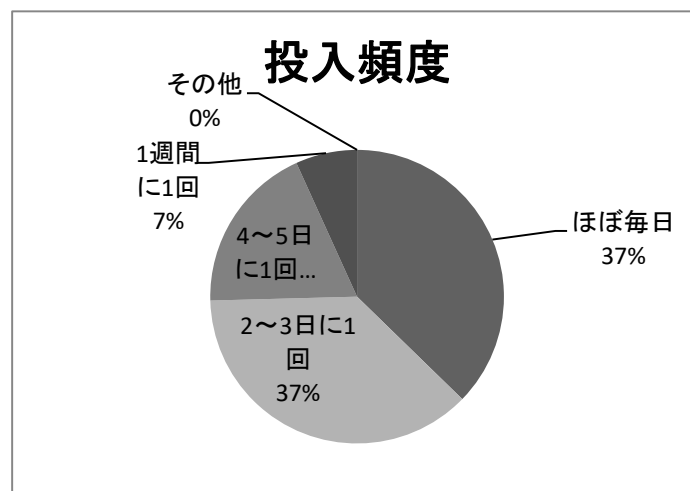
上記から、ミニ・キエーロを活用することで、1世帯あたりひと月約3.1kgの生ごみ削減が見込まれる。

投入量実績(8/9～31)

投入量合計(g)	138,360
平均投入量(g/回)	222

投入頻度

ほぼ毎日	22
2～3日に1回	22
4～5日に1回	11
1週間に1回	4
その他	0



(3) 投入される主な生ごみ

ご飯、麺類、肉の脂身、お茶(麦茶)がら、コーヒーかす、調理油、出汁がら、野菜くず(皮、芯、へた)、果物の皮、魚のあら(頭、骨、皮)、卵の殻 など

※下線を引いたものは分解されにくい又は分解されない

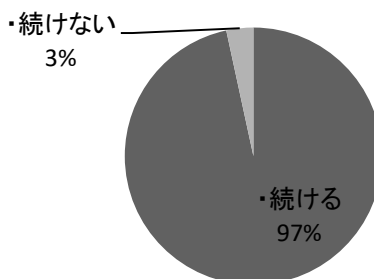
(4) 今後の意向

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「続ける意向である」が57件、「続けない」が2件であり、9割以上が今後も利用を続けるとの回答であった。(1)でうまくいかなかったと回答した世帯でも、入れるものや量を見直して続けたいとの回答が多かった。また、ミニ・キエーロでは容量が足りないと感じた世帯の中には、同程度の容器を別途購入したとの回答もあった。

今後の意向

・続ける	57
・続けない	2

今後の意向



【肯定的な意見(うまくいった点)】

- ・手間がかからず簡単に処理できた
- ・ごみ収集日まで袋に溜めるよりも、においが気にならず良い
- ・臭いや虫が発生しなかった
- ・揚げ物後の油を投入できるので、廃油処理の手間が省ける
- ・生のはレンジで加熱してから投入すると分解が速くなった
- ・分解が遅いものは水分や廃油を足すと分解が早くなった
- ・マンションのベランダにも置けるサイズで良い
- ・ミニ・キエーロをきっかけにごみの量を意識するようになり、ごみの減量について考えるようになった
- ・使うごみ袋のサイズが小さくなった
- ・少量でもできる範囲で続ければごみが減らせる

【否定的な意見(問題点)】

- ・分解されないもの、されにくいものがある(卵の殻、果物・野菜の皮など)
- ・生ごみの量が多いと中々分解されない
- ・分解できるものだけ入れると、生ごみ全体の半分以下にしかない
- ・投入できるものや量の見極めが難しい
- ・投入する前に細かく刻む作業が手間に感じる
- ・虫が発生した
- ・夏場は分解が速かったが、寒い季節は分解されるか心配
- ・ミニ・キエーロでは容量が小さいため、入れられる量が少ない